

**関西電力は、プルサーマル計画を中止せよ
美浜原発を廃炉に
耐震安全性なき原発を閉鎖せよ！
民主党政権は、原子力関連予算を削減せよ
再処理・高速増殖炉開発から撤退せよ！**

10・26反原子力デー

関西電力に 申し入れ行動をしよう！

美浜原発を廃炉に

プルサーマル計画を撤回してください



10月23日(金) 関電申し入れ 午後6時から (予定)

関電本社前集合 (地下鉄四つ橋線「肥後橋」駅下車徒歩7分)

11月3日(火・祝日) 午後1時半～4時半

美浜原発廃炉、プルサーマル計画撤回を

勝ち取るために 討論集会

場 所： ヒューマインド(JR環状線芦原橋駅下車、徒歩7分)

敦賀1号の延長と 美浜原発

日本原子力発電(原電)は、2010年に敦賀1号の廃炉を打ち出していましたが、2016年までの延長へと方針を転換しました。

敦賀3,4号炉の新增設計画が遅れ、敦賀1号の存続となったといわれています。これでは、敦賀1号炉の安全性が保証されているとは到底いえません。直下に活断層が走る敦賀原発は、廃炉

にすべきです。

一方 関西電力は、美浜原発の60年運転継続をねらっています。運転開始から美浜1号が39年、2号が37年、3号が32年になります。関電は、30年の寿命をこえた美浜原発の運転継続(60年運転)を狙い、耐震補強工事を行って来ています。私たちは、3基とも運転30年を超えて老劣化が進み、耐震安全性のない美浜原発の即時廃炉を強く求めます。

MOX燃料棒の信頼性は？

今年8月に、関電はMOX燃料集合体16体をフランスのメロックス社に注文したものの12体しか使い物にならないと発表しました。そして、国へ12体だけ使うと申請変更をしました。国は許可するとしていますが、16体のうち4体も使い物にならないというお粗末な品質のMOX燃料製造工程であるのに、「12体は大丈夫だ」と国も関電もどのように評価したのでしょうか。ますます不安になります。今回の問題はウラン燃料以上に危険なプルトニウムを混ぜるMOX燃料の特性に関わる問題であり、その品質が「目標値の範囲内に収まらない」ということは、重大な事態なのです。

2010年度実施を目指す高浜3・4号のプルサーマル計画において使用するMOX燃料の製造過程で、関電、原子燃料工業、メロックス社の3者で「ペレットの性状を確認するための自主検査の一つ」を行ったところ、「一部のペレットで目標値の範囲内に収まらない測定値を示すものがあった」ことから、関電がより詳細なデータの提供をメロックス社に求めても「拒否されたため、品質を確認できないと判断し使用中止を決めた」とされます。

過去にも関電はイギリスのBNFLに発注したMOX燃料のペレットの外径データ測定で、データねつ造があったことを自ら見抜けませんでした。関電自身の品質管理体制に問題があったのです。関電は今回、メロックス社に「再発防止を強く求め」たところ、「メロックス側でほぼ(原因を)推定し改善策を講じると聞いているが、十分な情報を得ていない」と説明するにとどまっています。関電はなぜ、「欠陥だらけの工程を根本的に改めない限り契約を破棄する」とか、「16体全部を始めから製造し直しなさい」という厳しい姿勢をとらないのでしょうか。

今回の件で最も重要な問題は、メロックス社のMOX燃料製造工程が実験室レベルの完成度に留まり、仕様通りの高品質のMOX燃料ペレットを



(メロックス工場
フランス)

安定して製造できないということです。これはプルサーマルの安全に係わる根本的な問題の1つです。商業レベルの工場で、製品の25%が欠陥品になるというようなところが、メロックス工場以外で一体どこにあるのでしょうか。関電自ら5年前と昨年の2度にわたってメロックス社の品質保証システム監査(事前監査)を行いながらこのような欠陥だらけの工程であることを見抜けなかったこと、それを今回発見しながらメロックス社から十分な情報提供もないまま工程改善をメロックス社まかせにしていること、これらが品質監査上大問題であることに気づいてさえいないこと、品質保証をすべてなれあいでも済まそうとする関電の企業体質にこそ重大な問題があるのです。

メロックス社がつくった12体の燃料集合体が安全であると誰が保証できるのでしょうか。関電はメロックス社との契約を破棄し、プルサーマル計画から撤退すべきです。

関電の安全は、地に落ちている

2004年に関電は、美浜3号事故で11名もの作業員が死傷するという大事故を起こしました。これは、原発の運転を停止しないで定検準備を進め作業員を原発に入れたためであり、定検短縮競争に奔走して配管の減肉管理を怠った安全管理のなさが問題となりました。その後、反省したかのようなポーズを見せていましたが、次のような人身事故を起こしています。

・ 美浜町・敦賀市境界部での鉄塔建て替え工事での墜落事故(2名死亡、2名負傷、2008年9月15日)

- ・ 舞鶴発電所建設現場での鉄板(10m×5m、2枚)転倒事故(2名死亡、1名負傷、2009年6月4日)
- ・ 守口市の鉄塔(14m)倒壊事故による民家破損と停電(2009年6月16日)
- ・ 大飯1号補助建屋でのウィンチ・金具(約25kg)の落下(約17m)による作業員 頭部負傷事故(2009年7月7日)

1年足らずの間に4件もの深刻な人身事故等を続発させ、4名の方々が死亡しているのです。これで関電は、安全管理体制ができているのでしょうか。関電セキュリティが、「町の安全を見守っています」とのマスコミを使っただけの宣伝文句とは大きなギャップを感じてしまいます。

地震と原発問題は、

何度も言いますが、「日本は、地震列島」です。敦賀半島には、美浜原発を始め、もんじゅ、敦賀原発と林立



していますが、その周りに大きな活断層がたくさんあることがわかってきているのです。

原発を推進する人たちは、地震の規模が大きくなっても、地震動が原発まで届くまでに不思議と小さくなってしまい、原発は「地震に耐えられる」と言います。しかし、このような都合の良い主張をまともに信じる人は誰もいないでしょう。

実際に、ゾッとするような恐ろしい事態が現に次々と原発に起こっています。地震は、原発からの大量の放射能漏れという大きな被害をもたらすことを暗示し続けているのです。

2009年8月11日の駿河湾の地震でも、M6.5というごく当たり前の地震でしたが、浜岡原発の耐

震性評価に使う基準地震動を上回る地震動が襲っていたことがわかって来ました。浜岡5号での出来事です。東海地震よりはるかに小さな地震であっても、原発に多大な影響を及ぼすということがわかってきたのです。大きな大きな東海地震が起これば、浜岡原発は本当に大丈夫なのでしょうか。

美浜原発を廃炉にしましょう

民主党は、無駄な原子力予算を削減し、

もんじゅを凍結せよ

今回の衆議院選挙で、民主党政権が誕生しました。私たちは民主党政権に原発・核燃料サイクル政策の転換を求めます。エネルギー特別会計には核施設立地のための買収予算が余剰金として埋もれています。5千億円もの原子力関係予算を大幅に削減し、再生可能エネルギーの開発・普及へまわすよう求めていきましょう。

アメリカでは、8ヶ月前の1月に民主党のオバマ政権が発足しました。前ブッシュ政権の原子力政策の見直しをはかり、ユッカマウンテンでの使用済燃料の最終処分場計画を打ち切り、2010年の予算案においても処分場建設の予算は全て削っています。また、国際原子力パートナーシップ(GNEP)についても、高速炉建設のキャンセルを決め、原発の新規建設でも、国からの財政補助の予算は増えていません。核軍縮への動きも出ており、日本も核不拡散の観点からプルトニウム政策を見直すべきです。米ソの経験したスリーマイル島原発事故、チェルノブイリ事故を忘れてはなりません。いったん原発重大事故が起これば、深刻な放射能災害とヒバクがつきまとうのです。

地震国日本では今、地震と原発問題が焦点化し、原発の耐震設計の見直しが迫られています。老朽化が深刻になっている美浜原発、もんじゅなどの耐震性も問題となっています。地震と原発問題を中心に、プルサーマル問題ともつなげ、今の原発問題を整理し、闘いを築くため、広く討論をする学習会を11月3日に行います。ご参加をお願いします。

~~~~~ 今後の予定 ~~~~~

9月27日(日) 午後1時半～4時

あれから10年「JCO事故を忘れない！」市民の集い

場 所: 大阪市立浪速人権文化センター (JR環状線「芦原橋」駅すぐ横)

主 催: 「JCO事故を忘れない！」げんぱついらない！市民の集い実行委員会

-----  
10月3日(土) 午前10時～

NO NUKES FESTA 2009 ～放射能を出さないエネルギーへ～

場 所: 明治公園(東京)

主 催: NONUKESFESTA2009 全国実行委員会

-----  
10月18日(日) 午後1時15分～4時45分

地域分散型エネルギーから脱原発・脱炭素を探る

美浜現地から、風力発電、自然エネルギーなど報告

場 所: ドーンセンター(地下鉄谷町線「天満橋駅」下車徒歩5分)

主 催: 地球救出アクション'97 若狭連帯行動ネットワーク

-----  
10月23日(金) 午後6時から

10・26反原子力デー 関西電力への申し入れ行動 (予定)

場 所: 関西電力本社(地下鉄四つ橋線「肥後橋」駅下車徒歩7分)

主 催: 若狭連帯行動ネットワーク

-----  
11月3日(火・祝日) 午後1時半～4時半

10・26反原子力デー

美浜原発廃炉、プルサーマル計画撤回を

勝ち取るために 討論集会

場 所: ヒューマインド(JR環状線芦原橋駅下車、徒歩7分)

主 催: 若狭連帯行動ネットワーク

「編集後記」

・ 全国からいろんな会報が届いてきます。皆さんのがんばりに励まされています。さて、私どもへの送り先が、変更されています。今後の送り先は、以下の住所にお願いします。よろしく。

〒583-0007 藤井寺市林5-8-20-401

きよ子